

< 翻訳と解説 >

独居高齢者の貧困と依存

— バングラデシュの独居高齢者の状況に関する、
Mobarak Hossain Khan へのインタビュー —

船木 祝（札幌医科大学）

F=Funaki（質問者）

K=Khan

[文中の小見出しは訳者による補足である]

日時：2014年7月23日 14:00 - 16:00

場所：Universität Bielefeld, Fakultät für Gesundheitswissenschaften, Postfach 100131,
D-33501 Bielefeld

① 独居高齢者の一般的状況

F：一人暮らし高齢者の置かれている一般的状況について、お話しして下さい。

K：船木先生、私を研究のためインタビューイに選んでくださりありがとうございます。私は、バングラデシュ出身で、バングラデシュの独居高齢者に関して述べたいと思う。

バングラデシュでは近年高齢化が進んでおり、高齢者が徐々に増加している。ただし、日本とは状況は異なる。日本での高齢化率は約 20% であるが、バングラデシュでは現在約 7% である。そこには大きな相違がある。しかし、バングラデシュの高齢者は日に日に増加している。高齢者の現状は、先進諸国の状況とは異なる。バングラデシュは高齢者のためのインフラ設備がそれほど進んでいない。そのため高齢者の多くは、実際には、家族に依存している。主に家族に依存しているが、高齢者がかなり高齢になれば、老齢年金のような政府から提供されるような便宜がいくつかある。そのような高齢者は政府から給付金を得ているが、その数はきわめて少ない。したがって、高齢者の多くは、実際には、家族の収入によって暮らしているということである。

② 独居のきっかけ

F：高齢者が一人暮らしになるきっかけとしてはどのようなものが挙げられるでしょうか。

K：高齢者が一人暮らしになる理由としては、いくつかある。ひとつは妻や夫が亡くなる時である。配偶者の死のために彼らはひとりになる。これがまず考えられる道筋であることは明白である。次に社会的変化が考えられる。バングラデシュは人口統計学上、総死亡率が日に日に減少しており、家族の規模も小さくなっている。すでに述べたように、以前、バングラデシュでは、多くの高齢者は家族の世話になっていた。しかし、近年子どもの数が減少している。そのため、高齢者の世話をすることができる人の数も以前ほど多くはなくなっている。以上が、高齢者が一人になる理由に関するひとつ目の論点である。

二つ目に移住がある。田舎からの移住である。経済的扶養のためよりよい収入、よりよい家庭生活を求め、若い世代は都市に移住することを好む。そのことで何が起ころうか。この移住によって、子どもたちがもともといた家から遠く離れてしまうため、高齢者は一人になる。ここに社会的変化が指摘できる。西洋化されたシステムのことである。たとえば、ドイツでは、子どもは18歳になると自立する。彼らは父親や両親の援助なしに、自活することができる。彼らは非依存的である。バングラデシュでは、完全には当てはまるわけではないが、そこでもある文化的変化が生じている。昨今、子どもは核家族を望む。夫婦と未婚の子どもだけの家族となり、夫婦の親はいない。多世帯が同居するということはない。核家族、すなわち夫婦と同居を望む彼らの未婚の子どもだけの家族になる。

また若い人たちにおける競争のため、昨今、社会システムが変化しつつあることが指摘できる。たとえば、ある人がバングラデシュの大都市であるダッカに滞在するならば、家賃はきわめて高くなる。生活費も非常に高い。しかし、給料や月給は他の者に張り合えるほど高くはない。そこで何が起ころうか。彼らは、家族や年老いた両親と一緒に暮らせるような大きな家を借りることができない。そこで多くの親は、実際に、移住者が以前住んでいた村に取り残されるのである。

どういうことかわかりますか。高齢者が一人暮らしになるにはいくつもの要因があるということである。ひとつは、配偶者の自然な死。二つ目に移住——これは村に取り残される人がいるということの意味する。三つ目に、若者の競争がある。若い世代は大きな住居を借りるだけの収入がない。いつもフラット式の集合住宅のようなところに暮らしており、親と同居することができない。こうした事情が多くの人をひとりにする原因をつくっている。

また、18歳で収入を得るようになれば非依存的になるという、ある種の西洋化された思考様式もある。そのため、近年、親子の社会的結びつきはますます弱くなっていると思う。以前はこうではなかった。たとえば、私の父は、2010年、75歳で亡くなったのであるが、その頃ほとんど毎日、ドイツから父と連絡をとった。「どう元気?」「身体の調子はどう?」といったように、父を気遣って。親の意向をうかがう強い気持ちがあった。今は、母に「調子はどう?」「何か問題はない?」といったように、ほとんど毎日電話をしている。しかし、親子のこうした強い感情的結びつきは、今日ではますます弱くなっていると思う。このことは、私たちの社会にとりけっしていいことではない。なぜなら、バングラデシュでは、高齢者が援助を得るために利用可能な設備があまり整っていないからである。たとえば、政府からの援助による老人ホームがない。ドイツでは、各都市に多くの老人ホームがある。ドイツにいてわかるように、ここではインフラ設備が整っている。しかし、バングラデシュはそうではない。老人ホームはダッカ市にごくわずか——おそらく一つか二つか三つ——あるが、それは、高齢者を世話するのに十分ではない。制度化されたシステムによって保障されていない。

以上の点は、後でも言及できるかもしれない。質問にあった高齢者が一人暮らしになるきっかけとしては、次の三つ四つほどが挙げられよう。すなわち、配偶者の死、移住、工業化・都市化、急激な世俗化、それから社会感覚の変化である。これが高齢者が一人暮らしになる理由である。

③ 子ども、きょうだい、親戚、近隣との関係

F: 高齢の親と子、きょうだい、親戚、近隣の人々との関係はどうでしょうか。

K: 私はすでにこの点に、この前の議論において触れた。高齢者の多くは家族と強い愛情のきずなで結ばれている。子どもたち、息子、娘、娘の夫、息子の妻、孫たちがいる。この他にも、近所の人たちとのある種の社会的結びつきがある。彼らはその土地に住み、長い期間お互いに知り合いである。そこで、退屈を感じるようなとき、外に出て、地域の高齢者のところに話しに行く。

当然のことながら、こうした結びつきがある。バングラデシュでは高齢者の多くは家族によって世話を受けているが、近隣や地域社会、きょうだいも必要に応じて、多くの点で高齢者を援助する。たとえば、すでに述べたように、外出可能な時間に、二、三人の高齢者が一緒に外出することがある。彼らはさまざまな問題や変化について話をする。ここには異なる集団間でのある種の結びつきがある。

しかし、財政的、経済的に高齢者は主に家族に依存している。彼らは、近隣からある種の社会的サポート、精神的サポートを得ているであろうが、近隣の人たちは、お金を与えることやある種の物資を与えることでの援助はしない。彼らは精神的サポートをするだけである。もし相手が悲しそうにしていれば、「心配ないよ。この問題はじきに解決するから、心配しないで」といった声をかけるかもしれない。しかし、お金の工面をしたり、経済的援助をしたりはしない。

④ 高齢者の自由、活動性

F：独居高齢者のパーソナリティーについてはどう考えますか。たとえば、一人になることで、自由になったり、活動的になったりする人は多いですか。

K：これはまた、別の興味深い質問である。自由は実際には相対的なものである。ご承知のように、自由を定義することはできない。ただ、私が理解する範囲内で回答することができる。

人は高齢になると、自由を失っていく。彼らは決定能力を失っていく。なぜなら、家族においては、主に家計を支える者が他の成員よりも自由を有するからである。このことは、高齢者が依存的存在であることを意味する。彼らは経済的に依存的であり、身体的に依存的であり、情緒的にも依存的である。このように、高齢者は多くの点で依存的である。そこから多くの依存性の問題が出てくる。高齢者は自由を失っていくのである。欲することを必ずしもできなくなる。ご承知のように、高齢者の中には、決定能力が比較的よかったり、十分よい者もいる。しかし、青年世代と中年世代が一家の主となる。彼らはおそらく、高齢者の言うことに、多くの知識と経験があったとしても耳を傾けることに関心がない。こうして、高齢者の自由は制限されると思う。高齢者にはあまり多くの自由はない。彼らは、子どもの言うことを聞かなくてはならないし、娘の夫、息子の嫁、ときには孫たちの言うことも聞かなくてはならない。それは、彼らが年をとり、動くことができず、そのため、——多くの時間——、他者から世話を受けなくてはならないからである。したがって、非依存性は制限されていると思う。私たちのようにまったくの自由ではありえない。

私が自由であるのは、お金を稼ぐからである。あなたがお金を稼ぐなら、おそらくあなたの決定は、依存する者より力をもつだろう。このことは至る所で当てはまると思う。バングラデシュだけではないだろう。世界中、どこであっても。もしあなたが家族のメンバーを支えることができなくなったら、あなたは家族にひいき目にみてもらうことができなくなる。その場合、自由はそれほど大きいものではなくなる。自由は大きなものから低度のものへと下降するであろう。これが私の理解である。

K：もう一つの質問、活動的であることについてまだ話していなかった。

活動的であること。これも制限されている。私が今できることを、おそらく 20 年後にはできなくなるだろう。それは私がエネルギー、体力、身体能力、精神能力などを徐々に失うからである。したがって、活動性は年齢に依存する。何歳であるか、一人で移動できるかどうか、援助を必要とするか否かによって。他者からの援助を必要とするということは、あまり活動的でないことを意味する。活動的でなくなれば、常に家族の他のメンバーや近所の人や親戚に援助を請い求めなくてはならなくなる。

このインタビューの中で、活動性に関しては次のように考える。通常、バングラデシュの退職

年齢は 60 歳である。政府機関での職員はおよそ 57 歳である。私たちのような大学教員は 60 歳になれば退職しなくてはならない。しかし、彼らの中には活動的でいたいため仕事を続けたいと思う人たちがいる。彼らは依存性がどのような結果になるのかをわかっているからである。健康である限り、何かできることがある限り、60 歳を超えても仕事を続けたいと思っている。それは他者に依存したくないからである。彼らは活動的でありたいと思っても、インフラ設備は高齢者が活動的であるように整備されていない。そのため高齢者は活動的でなくなり、活動性を失う。

自由とはそういうものである。自由は徐々に下降し、そのため活動性も下降する。たとえ人々の中には——高齢者の中に——、多少アルバイトや仕事ができたり、中には大変な仕事ができる者がいるとしても、彼らにはそれをするのが許されない。私が自分の目的のために、ある労働者を探している場合、たとえば、かりにバングラデシュで農業をしていて、土地を所有し、ある種類の農産物を栽培したいと思っていたとする。いったい何が起ころうか。私は常に、若くてエネルギッシュな労働者を選びたいと思うであろう。なぜなら、若者は高齢者よりもたくさん働くということを知っているからである。この例が示すように、私は土地所有者として、高齢者をその老いのために、農業で働くように仕向ける気持ちにはならない。彼らがたとえとても活動的であるとしても。高齢者は多少なりとも働くことができるかもしれない。しかし、それは若者のレベルではなく、せいぜい彼らができる範囲のことである。以上が私が指摘できるもうひとつの問題点である。老人を見て、私たちは彼らを活動的にすることに大して興味を抱くものではない。ご承知のように、彼らのより少ない生産性、活動性のためである。以上から私の結論はこうである。高齢者は年をとればとるほど、自由も活動性も徐々に低下させていくということである。

⑤ 日課、趣味など

F: 高齢者は毎日どのように日常生活を送っているのでしょうか。たとえば、散歩をしたり趣味をもったりといったように。

K: これはまた別の質問ですね。高齢者はどのように日常生活を送っているかと。それは活動性、経済状況、そして、自由、社会のあり方次第で変わってくる。バングラデシュの高齢者の多くとその世代は、教育を十分には受けていない。たいいてい人は読み書きができない。新聞を読んだり作文をしたりすることができない。高齢者が低い階級——貧困の社会階級——出身である場合、何が起ころうか。彼らは散歩に行く時間すらない。活動的であったり、趣味をしたりする時間がない。趣味は、やはり趣味であるにすぎない。高齢者がいかなる時間、生活を送ることができるかは、その経済状況次第である。もし貧しいとすれば、何か仕事をしなくてはならない。それほど活動できないような場合でも、生存のためには、生計を立て食べていき、薬局や医者から薬をもらうためのお金が必要である。したがって、ひどく貧しいとするならば、孫や他の家族のために働かなくてはならない。きわめて裕福だとするならば、散歩に行ったり他の人とおしゃべりをしたりする時間があるかもしれない。市場に行ったり、何か買い物をしたり、お店に行ったりすることができる。そこにいて他の人と一緒に話をすることもできる。それだけの時間があるからである。そういう人には経済的な負担がない。なぜなら、経済的欠乏について考えることもないし、自分にはたくさんの物、財産、土地があるということを知っているからである。子どもたちもとても活動的でお金を稼ぐ。そのような高齢者には経済的負担がない。いつも寛いでいられる。リラックスして日々を送ることができる。

しかし、高齢者が貧しいとすれば事情は変わる。それは、とても貧しいため、どうしたら生きながらえるか、家族を維持していけるかと考えなくてはならないからである。このように、貧困の高齢者と裕福な高齢者とでは大きな違いがある。そのため、ライフスタイルは大きく変わる。

ただし、高齢者には共通項もあると思う。日中のある時間、彼らは睡眠をとる。老いのせいで、肉体的にも強くないので、休養を必要とする。それで、高齢者は横になって休息をとる。それから、日中、彼らは孫と世話のため過ごす時間をもつ。

ひとつシナリオを描いてみよう。4人の家族がいるとする。高齢の親、その息子、その娘の夫(もしくはその息子の妻)とひとりの孫がいるとする。ひとは高齢者、そしてその息子、その息子の妻と孫である。孫を含めて4人家族である。誰かが家計を支えなければならない。当然若い人がその役を演じる。彼はお金を稼ぐ。家を出て村の外を出て働きに行く。妻は家族の世話をする。食事の用意をしたり、子どもの世話をしたり、そういったことをする。この家族で孫の世話をすることができる人は、ひとり高齢の親だけである。そのため高齢者は孫の世話のため忙しくする。以上のように、日中、高齢者は孫と過ごしたり、また体が弱るため、横になったり休息をとったりする。他にも、家族のメンバーを助けるため、どうにかできることや若干の簡単な仕事を手伝ったりするかもしれない。大変な仕事ではなく、ごく簡単なことを。他にも、時には畑を耕したり、畜牛や動物の世話をしたり、家族の手伝いのため外出することがあると思う。このように、高齢者は自分たちの時間をいくつかの活動に振り分ける。しかし大半は、睡眠や休息をとったり、孫の世話をしたり、できる範囲内で家族を手伝ったりして過ごしていると思う。以上が日常生活の様子である。

⑥ 高齢者の精神的状況

F：高齢者は過去の不幸な経験によって影響を受けていますか。

K：明らかにそうである。高齢者だけではなく、だれもがそうであろう。もしあなたが過去に辛い経験をしたとするならば、それはあなたに影響を及ぼすだろう。メンタルヘルス、フィジカルヘルスに、そして、睡眠状態などに影響を及ぼすだろう。

また高齢者は依存性、他者への依存性のためにはなはだしく影響を受けると思う。たとえば、現在私はお金を稼いでいる。子どもの世話をしている。また両親の世話もしている。私が子どもに対してもつ期待は何であろうか。子どもが成長しお金を稼ぐようになったら、自分の面倒をみてもらうことを期待する。自分の両親の世話をし、子どもたちの世話をしたのだから、年をとったら子どもたちに私の面倒をみてもらう。事情が変わって、子どもたちが私を大切にとり扱わなかったり、言葉で私を傷つけたり、あるいは、相談すべきことを私に隠したりするとしたら、高齢である私は不幸になる多くの理由をもつことになる。子どもたちの態度が変わったということである。

高齢者は子どもに経済的に依存する。たとえば、私の両親が薬を治療のため必要としているとする。もし私が、父か母に「ごめん、私にはそのためのお金がない。出すことができない」と言ったとするならば、そして、母が、十分な稼ぎがあるので私にはそのお金があると知っているなら、母の心情は大きな影響を受けるだろう。私の母はこう思うに違いない。「おー、私は年をとったのに、息子は私の面倒をみてくれない。私が若かったとき、息子の世話をした——世話をしなければならなかった。息子が子どものとき、育てるために多くの時間を費やした。今、息子は私の世話をできるほどに成長した。母として私は世話をし、今あなたは成人である」、と。これは世代間の問題である。私が言いたいことは、若い世代が間違っただけの振舞いをしたり、何か高齢者を傷つけることを言ったりするとすれば、親は——高齢の親は——、とても不幸になるということである。

そしてこの不幸は多くの問題を生じさせる。そのひとつはメンタルヘルスがひどく損なわれることである。高齢者はたえずこう考えるであろう。「ああ、私の子どもたちは私の生活のことを真面目に取り合ってくれない。私の健康を気にかけない。私の食事のことを心配しない。私の移

動のことも気遣ってくれない。どのように私はあそこに移動したらいいのだろう。」子どもたちは高齢者の面倒をみない。ここにはメンタルヘルスに深刻な影響を及ぼす問題があるのである。また薬の調達の問題もある。もし高齢者が適宜に、適当な時点で薬をもらったり治療を受けたりすることができないとしたら、何が起こるのであろうか。彼らの健康状態はますます悪くなるであろう。結局のところ私が言いたいことは、バングラデシュでは、不幸な高齢者が多くいるということである。高齢の親は、その家族の振る舞いが悪いため、不幸である。

そう、高齢者はそのように幸せではない。バングラデシュに行ったとき、高齢の家族や親戚が私のところに来て、子どもたちから受けたひどい経験について話すことがある。彼らは、息子や息子の嫁たちに対する失望などを表現する。そのようなとき私は少しばかり手助けをする。たとえば、ある婦人はある日私のところに来て、次のように話した。「私は薬が必要なのに、息子は薬代を支払ってくれない」、と。似たようなケースは多くある。こうした高齢者は、子どもたちのために真に幸せでないことが多い。100% そうであるとは言わないが、少なくとも高齢者が幸せではない多くの事例を見つけることができる。

⑦ 精神的安定の維持

F：高齢者は精神的安定をどのように維持していますか。

K：これは私がお答えできることではないが、お話しできる範囲でお答えしましょう。

安心はその人の能力にかかっている。さまざまな状況をどのように扱えばいいのか、ということである。もし家族が高齢者に何かよくないことをしたとしたら、高齢者はこのショックを乗り越えるために何か手段を講じたくなるであろう。誰もが精神的安定を必要とする。しかし、そうした安定は多くの要因に依存するため困難なことがある。それは単一の問題ではない。多くの要因に依存する。子どもたちが適切に対応すれば、高齢者は安心するであろう。必要なとき薬を手に入れることができれば安心するであろう。行きたいところに行くことができれば安心するであろう——移動可能性。やりたいことを制限されなければ安心するであろう。「これこれのことをしないように。そこにはいかないように」といった類の、そのような制限である。制限されることが少ないと、人はより多く余裕をもつことができる。また、食べたいものを食べられるとき、安心感が得られるであろう。家族が欲しい食べ物を用意してくれれば、高齢者はそれを味わえる。子どもたちが食事の世話をしてくれ、以前の家族への貢献を認めてくれるなら、高齢者は感情がよくなり、より多くの安定が得られるであろう。

家族のあり方は経済状況に依存する。家族を築くことにより、さまざまなことをする。たとえば、私の父は仕事のため、土地を購入した。今では、私たちはこの土地のおかげで恩恵を被っている。父が若いときに建てた家を使うことができる。私たちは将来高齢になるとき、両親の遺したものの受益者になる。そして父の貢献を理解する。父は多くのことを私たちのためにしてくれた、と。教育のため大学に通わせてくれた。食べたいものを食べさせてくれた。もし、こうしたお蔭について良い言葉を述べれば、おそらく高齢の親はより幸せになるだろう。

高齢者はどのように精神的安定を維持するかという質問に対するこれまでの回答を要約するとすればこうである。それは、彼らが以前成し遂げたこと、その活動性を承認することにかかっている。また、さまざまな援助にかかっている——経済的援助、精神的サポート、移動のサポートなど。以上のことは次のことを意味する。若い世代が高齢者に対してより多くの便宜を図ることができるならば、高齢者はより多くの安心感を得るということである。政府が経済的サポートをしたり高齢者ケアのための施設を建設したりすることによって援助するならば、高齢者は政府のこともっと歓迎するであろう。したがって、私たちは高齢者を幸せにする責任があるのである。社会には高齢者を幸せにする責任がある。家族には責任がある。国家——国民——には責任がある。

私たちが自分たちの感覚に従って、高齢者の満足のために活動することができるならば、高齢者はその生を平穩に維持することができると思う。もしそうでないならば、私が親に対する責任を、国家が高齢者に対する責任を、医療が治療に対する責任を果たさず、そして社会が高齢者を年とっているからと言って避けたり、やり取りを限定したりするといった悪い振る舞いをするならば、そこには高齢者が不幸になる要因があるのである。

⑧ 将来への不安

F：高齢者は将来に対するどのような不安を抱えていますか。

K：この質問には私は答えられるであろうか。私が言える範囲のことだけを述べる。不安とは、誰かが何か心配事があるとき、何か制限を受けているとき、やりたいことができないときに使われる言葉である。これらの特徴を理解するなら、不安は、経済的負担や欠乏を意味したり、多くの事柄を意味することがわかる。これらの特徴を理解するなら、不安は、高齢者に関係するほとんどすべてのことに当てはまることわかる。

たとえば、ある高齢者は毎日、ほとんど病弱に過ごしている。病気で苦痛があったりなかったり、睡眠障害があったりなかったりする。胃に問題があったり、他の老人性の疾患に罹っていたりと、多くの病を抱えている。こうした病気の広がりはとても大きい。誰かが病気で高齢である場合、それは不安の原因になる。悪い健康状態のため、気分がすぐれないからである。

不安は次のように考えるときにも生じる。「明日の朝、明日、私は何を食べるのか？私には収入がないから、確かでない。子どもたちが明日食べ物をくれるかも定かでない」、と。

不安は、将来のことが不確かであるために生じる。二時間後に何が起こるだろうか。病気になったらどうなるだろうか。事故に合ったらどうしよう。食べ物がなくなったらどうなるだろう。誰が私を助けてくれるのだろうか。このように、実際に、人を不安にする多くの問題がある。つまり私が言いたいことは、不安は、日々の事柄に対してほとんど毎日生じるところの生活の一部となっている、ということである。

人は高齢になればなるほど、不安になる。将来のこと、健康のこと、食べ物のこと、着る物のこと、医療のこと、社会のことなど。このように、高齢者は社会の中でたくさんの不安を抱えていると思う。若い世代よりはるかに多く。自分たちより若い人、あるいは最年少の人たちよりもはるかに多くの不安を。

⑨ 経済問題、健康問題

F：高齢者は、健康上、経済上、どのような問題を抱えていますか。

K：これはまた別の質問ですね。バングラデシュは、全般に、経済力がある国ではない。貧困線以下の暮らしをしている貧しい人が多い。貧困線、その定義をご存じだと思うが。財政上の問題と並んで、健康問題、住居問題、社会問題などがある。しかし私が思うに、高齢者は相対的に多くの問題を抱えている。なぜなら、私のはじめに述べたように、ダッカ市に誰かが移住する場合、彼はまずひとりである。次に妻を呼び寄せる。それから子どもたちを。そしてもし大きな家をもてるならば、親を呼ぶかもしれない。したがって、住居は高齢者にとり大きな問題なのである。以下に、私が 2003 年に行った調査に基づく統計データを示してみよう。私は、バングラデシュの異なる地域の 900 名の高齢者に、あなたが抱えている主な問題は何かと尋ねた。回答は以下の通りである。約 50% の人が、「金銭上の問題がある」と回答した。すなわち、経済問題である。他の 40% か 42% か 45% の人が、健康問題を挙げる。すなわち、彼らは、気分が悪かったり、何か病気や症状があったり、メンタルな問題で苦しんでいたりと、不眠などであったりする。約 30% の人が住居問題を挙げる。生活のための十分な場所がないということである。これらが高齢者の

抱える主な問題である。一つに経済、金銭上の問題、二つ目に健康問題、三つ目に住居問題である。

次にこれらの問題に関連することを述べる。たとえば、経済的依存性がある。その点は前に指摘した。経済上の問題のために、約65%の高齢者が家族に経済的に依存している。バングラデシュでは、それは息子であって、娘ではない。バングラデシュの家族は、息子が支配する。そのため、息子は娘よりも力がある。息子があらゆることを決定する。娘は息子のようにには決定できない。このように、依存者である高齢者は、たいてい息子の収入に依存するのである。二番手として、7%だけの人だけが娘に依存している。自分の経済的問題のために娘に依存していると言う人は、たったの7%である。一方、息子は65%である。したがって、そこには明白な違いがある。このように、高齢者は、他の者にではなく、彼らの息子に依存することが多いのである。自分で、すなわち、自分自身の経済力で賄うという高齢者はわずか1%である。1%という、このデータの意味するところがおわかりであろうか。たった1%である。高齢者の65%がその経済援助を息子に、約7%が娘に依存する。経済的に自立している者はわずか1%である。以上のように、高齢者は経済問題のため、家族に大きく依存しているのである。たとえば、彼らが着る物を買に行きたいとする。その場合、家族のメンバーがお金を出してくれないと買うことができない。息子が薬代を支払ってくれないと、薬も買うことができない。あらゆる点で、高齢者は家族のメンバーに支えられていると思う。

高齢者の抱える主な問題に関してまとめるとするならば、こうである。一番目に経済問題、二番目に健康問題、三番目に住居問題である。他に何かあれば質問してください。

F：カーン先生、インタビューをありがとうございました。

K：どういたしまして。

訳者による解説

船木 祝

カーン氏は、1989年、バングラデシュ・ジャハングナガル大学を卒業。1990年統計学にて理系修士号(M.Sc.)を取得。1993年～1994年、ダッカ市の疾病コントロールのための疫学研究所所長を務める。2007年札幌医科大学公衆衛生学講座において博士号(Ph.D.)を取得する。同年、ビーレフェルト大学の公衆衛生学科講師に着任。研究の主な関心領域は、大都市と都市部の健康、および環境と健康の問題である。

インタビューの初めに、第一に、バングラデシュにおける高齢者の状況は先進国の状況とは異なることが指摘される。それは、バングラデシュの高齢化率は約7%でさほど高くないこと。また、高齢者のためのインフラ整備が整っていない。老齢年金のような政府からの給付金制度が整備されていないので、家族の収入への依存度が高いということである。

第二に、高齢者が一人暮らしになるきっかけには多様な要因があることをカーンは強調する。それには、ひとつに配偶者の死亡、二つ目に移住、三つ目に若者の競争がある。とくに、二つ目と三つ目の点はバングラデシュの近年の社会的・文化的変化を反映している。若い世代はよりよい収入を求めて都市に移住する。そして核家族を望む。その結果、高齢者はひとり田舎に取り残される。また、競争社会が拡大し、大都市に暮らす若い家族の住居の家賃も高騰化している。そのため高齢の親と共に暮らせるような大きな家を借りることができない。加えて、親子関係の結びつきも弱くなっている。このように、バングラデシュの高齢者は、一方でインフラが整備されておらず、国や自治体からの援助も望めず、他方で、子どもと結びつきも弱体化し、大きな期待

ができなくなっているという現状にある。そこにカーンは、バングラデシュにおける西洋の自律志向の影響を見る。

第三に高齢者をめぐる人間関係に関しては、おしゃべりや外出といった近隣の人々との結びつきを指摘する。ただし、高齢者はそうした結びつきによって、社会的・精神的サポートしか手にすることができない。ここでも強調される点は経済的サポートであり、その担い手は家族であるという。

第四に、高齢者が一人暮らしになることで自由が享受されるかという質問に対するカーンの回答は、どちらかといえば否定的である。カーンの考察における注目すべき点は、自由の問題を高齢者の置かれている依存状態の考察を出発点として説明することにある。高齢者は経済的、身体的、精神的に依存状態にある。そのため、周囲の者の世話になり、自分の欲することが必ずしもできなくなる、ということである。カーンはこの依存状態を生み出す背景に関して、ここでも経済面で支える家族のメンバーが支配力をもつことを強調する。

高齢者の活動性は、やはり身体能力および精神能力次第である。年齢とともにそれらの能力を失うにつれて、高齢者は他者の援助に依存することになり、活動性も制限される。したがって、依存性の問題は高齢者の自由と活動性を左右するものといえる。カーンは、高齢者が退職後働くことを望む背景には、他者へ依存することがどういう結果になるかを高齢者が知っているからだと言及する。

以上から、経済的、身体的、精神的依存度が高齢者の自由と活動性を左右するものであることがわかる。だれが経済的援助者であるかによって、高齢者の置かれる状況が大きく変わる。

第五に、高齢者の日々の暮らしの過ごし方も、主にその経済状況によって変わるとされる。裕福な高齢者は、経済的負担がないので、散歩に行ったり、おしゃべりをしたり、趣味を楽しんだりすることができる。しかし、貧困の高齢者は、生活のために働かなくてはならない。カーンはこうした日々の過ごし方における高齢者の相違を指摘する一方で、多くの高齢者に見られる共通の特徴も指摘する。それは、日中、休養のため睡眠をとること、そして、孫の世話をすることである。

第六に、高齢者の精神的状況に関して、それが子どもとの関係に大きく左右されることが強調される。高齢の親の精神状態は子どもの振る舞い、および言動によって大きく揺れ動くということである。カーンによればそこには、子どもへの経済的依存性と両世代の世代間問題がある。子どもに経済的に依存せざるをえない高齢者が、薬の調達などのために援助を得られない場合、それは心的問題につながっていく。すなわち、これまで育ててきた子どもが成人したにもかかわらず、自分の世話をしてくれないことに対する失望である。このように、バングラデシュでは、子どもに依存せざるをえない高齢者の経済状況が、さまざまな心的問題を引き起こしていることがわかる。

第七に、高齢者がどのように精神的安定を維持するかという質問に関して、多元的考察が展開される。すなわち、安心を手にするには、多くの要因が求められるということである。子どもの適切な態度、移動可能性、行動に制限が少ないこと、周囲の者によるこれまでの貢献の承認などである。カーンはこの文脈で、これまで家族関係に重点があった考察を、さらに社会、国家のあり方にまで拡大していく。高齢者が精神的安定を維持するためには、子どもによる責任履行だけでなく、政府による経済援助およびインフラ整備、また医療の責任履行、非高齢者世代の態度などさまざまな援助が必要であるということである。

第八に、高齢者の将来に対する不安について尋ねたところ、カーンは、不安は高齢者の生活の一部になっていると指摘した。不安は、経済的心配、健康状態の悪化、子どもたちからの世話などに関して、日々さまざまな要因で生じる。今は健康で無事な人でも、将来の病気、事故、経済

状況に対して人は不安を日常的に抱いている。高齢になればなるほど、不安感は強まっていくといわれる。

そこで、第九に、高齢者の具体的経済問題、健康問題を尋ねたところ、カーンは、バングラデシュの900名の高齢者に対する調査研究に基づいて以下のように回答した。この調査によれば、半数ほどの高齢者の一番目の問題は経済問題である。二番目に健康問題、三番目に住居問題があるという。ここでも経済問題が大きい。自活能力のある高齢者はわずか1%であるという。そのため、息子への経済依存がやはり強くなる。

以上から、バングラデシュの高齢者の置かれている状況は経済状況に大きく左右されていることがわかる。そして、高齢者は経済面、精神面での家族依存度が強い。一方で、西洋化された自律思考様式は若者世代にも広がりつつあり、よりよい収入、暮らしを求めて都市に移住する者が増加している。そこには、家族に依存せざるをえない高齢者と、自律志向をもち、文化的・社会的変化を体現しつつある非高齢者世代との葛藤が認められる。